

右三ヶ條は、ころび候きりしたんに書せ取可申候、與二ヶ條は、總様の百姓共、并召仕の者迄書せ、庄屋所ニ請取可申者也、

亥十月十日

周防印

北山

庄屋

百姓中

強起請

〔源平盛衰記 二十六〕兼遠起請事

平家大ニ驚キ、中三權頭ヲ召上テ、如何ニ兼遠ハ木曾冠者義仲ヲ扶持シ置、謀叛ヲ起シ、朝家ヲ亂ラントハ企ツナルゾ、速ニ義仲ヲ擲進スベシ、命ヲ背カバ汝ガ首ヲ刎ラルベシト、被下知ケレバ、兼遠陳ジ申テ云、此條且被聞召候ケン、義仲ガ父帶刀先生義賢ハ、去久壽ノ比、相模國大倉ノ口ニテ、甥ノ惡源太義平ニ被討侍キ、義仲其時ハ二歳ニナリケルヲ、恩愛ノ道ノ哀サハ、母惡源太ニ恐テ、懷ニ入テイカバセント歎キ申シカバ、一旦哀ニ覺エテ請取テ今マデ孚置テ侍レ共、謀叛ノ事努々虚言也、人ノ讒言ナドニ候カ、但御諛ノ上ハ、身ノ暇ヲ給テ國ニ下、子息共ニ心ヲ入テ可擲進ト申、右大將家重テ仰ニハ、身ノ暇ヲ給ハント思ハ、義仲ヲ可擲進之由、起請文ヲ書進ベシ、不然者子息家人等ニ仰テ、義仲ヲ擲進セン時、本國ニ可返下也ト有ケレバ、兼遠思ヒケルハ、起請ヲカカデハ難遁、書テハ年來ノ本意空カルベシ、イカバスベキト案ジケルガ、縦命ハ亡ブトモ、義仲ガ世ヲ知ンコト大切ナレ、其上心ヨリ起テ書起請ナラズ、神明ヨモ惡シトオボシメサジ、加様ノ事ヲコソ乞索壓狀トテ、神モ佛モ免レ候ナレト思成テ、熊野ノ牛王ノ裏ニ起請文ヲ書進ズ、其狀ニ云、

謹請 再拜再拜